

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会

2022年度第3回常任幹事会議事要録

日 時：2023年3月10日（金） 14時～16時30分

場 所：愛知工業大学 本山キャンパス

出 席：愛知工業大学（大島和幸、加藤直美、榎岡憲司）、日本福祉大学（松橋秀親）、
椋山女学園大学（川井幸治、川隅知美）、名城大学（川村信一）、
愛知学泉大学（高橋明美）、愛知大学（鈴木孝則、島田美津穂）、中部大学（高木秀明）、
金城学院大学（西尾十和子）、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学（守田正江）
愛知学院大学（田島俊英、関谷常德）

10校15名

理事校・愛知工業大学（加藤）より、2022年度第3回常任幹事会を開催する旨の説明があった。議事進行は議長として選出された愛知工業大学附属図書館長（大島）が担当した。

I. 報告事項

1. 私立大学図書館協会、西地区部会関係

1) 第2回東西合同役員会

2) 第2回西地区部会役員会

理事校（加藤）より、資料（p.1～9）に基づき報告があった。

3) 委員会報告

（1）協会賞審査委員会

協会審査委員校・名古屋外国語大学・名古屋学芸大学（守田）より、資料（p.10）に基づき報告があった。

なお、2022年度協会賞については1名の推薦があり、採択されたとの報告があった。

（2）研究助成委員会

研究助成委員校・中部大学（高木）より、資料（p.10～12）に基づき報告があった。

（3）国際図書館協力委員会

国際図書館協力委員校・愛知大学（島田）より、資料（p.12～14）に基づき報告があった。

2. 東海地区大学図書館協議会

2022年度東海地区大学図書館協議会研修会当番館・名城大学（川村）より、資料（p.15）に基づき報告があった。

委員より、協会の脱退校および脱退届出校が例年より多い印象を受けるが脱退理由であるのかとの質問があり、理事校（加藤）より、役員会で個々の脱退理由の説明はなかったが、大学の募集停止が1件含まれていることは確認しており、近年の脱退理

由に募集停止・公立化が含まれていることが多いこと、また昨年度東海地区協議会の脱退校については予算削減が脱退理由だったとの回答があった。

II. 審議事項

1. 2022年度東海地区協議会事業報告および中間決算（案）について
理事校（加藤）より、資料（p. 16～18）に基づき2022年度東海地区協議会事業報告について説明があり、承認した。なお、「学生協働フェスタ in 東海 2022」については、サポートミーティング幹事校金城学院大学（西尾）より、資料（p. 18）に基づき補足説明があった。
続いて、理事校（榎岡）より、資料（p. 19～20）に基づき中間決算（案）について説明があり、承認した。
2. 2022年度東海地区協議会研究会活動報告および中間決算（案）について
研究会運営委員長校椋山女学園大学（川井）より、資料（p. 21～23）に基づき説明があり、承認した。
3. 2023年度東海地区協議会役員校および委員校（案）について
次期理事校椋山女学園大学（川井）より、資料（p. 24～25）に基づき説明があり、承認した。
4. 2023年度東海地区協議会事業計画（案）について
次期理事校学（川井）より、資料（p. 26～29）に基づき説明があり、承認した。なお、「学生協働フェスタ in 東海 2023」については、サポートミーティング幹事校金城学院大学（西尾）より、資料（p. 28）に基づき補足説明があった。
5. 2023年度東海地区協議会総会（案）について
次期理事校（川井）より、資料（p. 30）に基づき説明があり、承認した。
6. 2023年度東海地区協議会予算（案）について
次期理事校（川井）より、資料（p. 31～33）に基づき説明があり、承認した。
7. 2023年度東海地区協議会研究会事業計画ならびに予算（案）について
次期研究会運営委員長校金城学院大学（西尾）より、資料（p. 34～35）に基づき説明があり、承認した。
なお、研究会概要等は、3月23日開催予定の研究会準備委員会で検討予定のため、現段階では未定とした旨の説明があった。
8. 東海地区協議会における事業のスリム化（案）
理事校（加藤）より、資料（p. 36）に基づき説明があり、承認した。
なお、今後の事業縮小や予算繰越金のことを踏まえて、東海地区協議会の会費

見直し案を第3回常任幹事会で提案予定としていたが、当面は、会費に係る申し合わせ事項を適用する方針となった旨の補足説明があった。

また、理事校（加藤）より、【参考資料】『東海地区協議会スリム化検討に関するアンケート』調査結果の取扱いについてご意見をいただきたい旨の発言があり、協議の結果、当調査結果は2023年度総会で加盟館に開示することが承認された。

その他、スリム化検討ワーキンググループについては、『館刊』に関する協議があるため、2023年度の会議体は継続とするが、ワーキングメンバー構成については、後日、次期理事校（川井）から、現行のワーキングメンバーに継続の意思確認等を行うことが確認された。

9. 2023年度以降の理事校・役員校・当番校（案）

理事校（加藤）より、資料（p.37～39）に基づき説明があり、承認した。

なお、理事校ローテーションは、東海学園大学の学生数が4,000名を下回っているが、運用原則となっているため、このまま掲載することが確認された。

III. その他

1. 東海地区協議会総会資料冊子の取り扱い（案）について

次期理事校（川井）より、資料（p.40）に基づき説明があり、了承された。

なお、愛知学院大学（田島）から、PDFデータを協会ホームページに掲載する際、OCR処理をお願いしたいとの発言があり、次期理事校（川井）より、そのように対応したいとの回答があった。

2. 「学生協働フェスタ in 東海運用申し合わせ」について

サポートミーティング幹事校金城学院大学（西尾）より、資料（p.41）に基づき説明があった。なお、愛知学院大学（田島）から、「通り」という表記は規定文の場合はひらがなで表記することが標準とのご指摘があり、金城学院大学（西尾）より、ひらがな表記に修正するとの返答があった。

3. 『館灯』残部の寄贈及び保管について

理事校（加藤）より、資料（p.42）に基づき、説明があった。

なお、次期理事校（川井）より、59・60号合併号については約120部を保管している旨の補足説明があった。

(3) 課題については、保管分を含めた残部全てを、一旦は次期理事校（川井）へ引き渡しを行い、最新号残部の保管期間等について次年度以降、改めて協議を行うことが確認された。

4. 理事校引継ぎ資料（過年度分）について

理事校（加藤）より、紙資料については全て廃棄することが決定したことに伴い、資料を保管いただいている愛知大学、日本福祉大学より、現在の廃棄状況等

の報告をお願いしたいとの発言があった。報告内容は次のとおり。

○愛知大学（鈴木）・・・昨年末に学内の機密文書廃棄実施時に廃棄済。
大学費用で処分を行ったため、東海協議会予算からの支出はなし。

○日本福祉大学（松橋）・・・来年度以降に廃棄予定。
大学費用で処分を行うため、東海協議会予算からの支出はなし。

その他、日本福祉大学（松橋）から、実務担当者研修会の備品も保管しているが、その取り扱いについて質問があり、協議の結果、次期理事校（川井）が後日備品の現物を確認の上、必要な備品は次期理事校で引き取り、不要な備品は日本福祉大学で処分をお願いすることが確認された。

[懇談事項]

1. 私立大学図書館協会会報担当校について

理事校（加藤）より、2021・2022年度に担当した「私立大学図書館協会会報」刊行・編集業務について、担当校を引き受けた経緯、業務内容等について報告があった。（詳細は次のとおり）

なお、会報業務についても、今後の西地区部会のスリム化の一環として委託化等の検討をお願いしたいとの発言があった。

- ・会報担当校は2年任期で担当。ローテーションは東地区と西地区で交互、さらに西地区は、東海地区・京都地区・阪神地区の3地区のローテーションとなっている。
- ・本学が担当校であることを認識したのは、理事校担当の直前であった。
- ・刊行は9月（前年度の会務報告）と2月（総会号）の年2回で、編集作業については想定以上に校正も多く、発送準備も含め業務負担が大きかった。
- ・本学からは西地区部会スリム化検討委員会において、業務委託化の提案を行った。

2. その他

日本福祉大学（松橋）より、西地区部会のスリム化（役員校等の輪番制）の検討が進んでいない理由について質問があり、理事校（加藤）より、西地区部会長校（松山大学）からは、本務が忙しく検討を進めることができなかつた旨の説明があったとの回答があった。

以 上